

be 動詞の文

◎be 動詞は、A=B の「＝」の役割をします

現在形の be 動詞は am ・ is ・ are の 3 つです。

	現在形
主語が I のとき	am
主語が単数のとき	is
主語が複数のとき	are

※単数とは数が 1 人（1 つ）

※複数とは数が 2 人以上（1 つ以上）

例えば、「私は幸せだ。」を英語にすると、

私 (I) = 幸せ (happy) だから、**I am happy.** となる。

be 動詞の am は＝（イコール）の役割をしています。

be 動詞を使うときは、主語の数に注目して、最適な be 動詞を選びましょう。

次は、肯定文・否定文・疑問文を比べてみましょう。

肯定文 Yuko is kind.

否定文 Yuko is not kind.

疑問文 Is Yumi kind?

疑問文への応答 Yes, she is.

 No, she is not.

まず、be 動詞の文の否定文・疑問文のつくり方を覚えましょう。

not は否定文を作るための特別な道具です。

否定文 be 動詞の直後に not を置く

疑問文 be 動詞を主語の前に出す

一般動詞の文

◎一般動詞は、人や物の「動作」を表します

例えば、eat(食べる)、run(走る)、sing(歌う)、study(勉強する)

などの語は一般動詞です。一般動詞は動作を表す言葉ですが

like(～を好む)、hope(～を望む)、think(～と考える)など、心の動きを表す語もいくつかあります。

ここで、肯定文・否定文・疑問文を比べてみましょう。

肯定文 You play tennis.

否定文 You do not play tennis.

疑問文 Do you play tennis?

疑問文への応答 Yes, I do.

 No, I do not.

一般動詞の否定文・疑問文をつくるときは、特別な道具を使います。do や do not (don't) が疑問文・否定文を作るための道具です。do の過去形は did です。

do という単語には一般動詞で「～する」という意味もあるので注意が必要です。

否定文 動詞の直前に do not (don't) 置く

疑問文 主語の前に do を置き、動詞を原形にする

◎一般動詞で注意が必要な**三単元**のルール

主語が、①**三人称** (I と you 以外のすべて)、②**単数** (1 人・1 つ)、③**現在**、の条件をすべて満たす場合は、動詞に「s」を付けます。頭文字をとって「三単元の s」と呼びます。

例文： Yuki plays the piano well.

助動詞の文

◎助動詞は、動詞の意味を助ける役割をします

助動詞は、be 動詞と一般動詞の両方に対して使えます。このプリントでは、英文を 3 種類に分類していますが、「英文には be 動詞の文と一般動詞の文の 2 種類があり、それぞれの文で助動詞を使うことができる」と考えても良い。

be 動詞の文	一般動詞の文
↓	↓
助動詞を使って「助動詞の文」を作る	

例えば、助動詞には次のようなものがあります。

助動詞	意 味	使い方
can	～できる	I can cook okonomiyaki.
will	～だろう	I will study English.

助動詞の否定文・疑問文の作り方は be 動詞のそれに似ています。

肯定文 She can play tennis.

否定文 She cannot play tennis.

疑問文 Can she play tennis?

疑問文への応答 Yes, she can.

 No, she can't.

否定文 助動詞の直後に not を置く

疑問文 助動詞を主語の前に出す

◎助動詞の文は次の点に気を付けましょう

- ・助動詞は主語によって語形変化しない
- ・助動詞の後に来る動詞はすべて原形である